

## 活動報告

### 「野火止用水」散策

・・・・玉川上水駅から久米川駅・・・・

■実施日時 2019年10月3日(木) 10:00~14:30

■参加者 21名

■はじめに

野老澤の歴史をたのしむ会として「野火止用水」散策に初挑戦する事になりました。小平監視所から平林寺(新座市)までの約20kmを3回で踏破しようという試みです。今回は第1回で玉川上水駅から久米川駅までの約7kmの散策で寄り道しながら野火止用水の歴史を思い、そして水の流れと武蔵野の風景である雑木林の景観を楽しんでもらえるコースです。(数年前に玉川上水を踏破)

■野火止用水の歴史

□江戸時代 大阪の陣以降 幕藩体制が安定すると共に江戸の町は拡大し人口増加に伴い飲料水の供給が深刻化した為、幕府老中で川越藩主 松平伊豆守信綱によって承応2年(1653)に玉川上水(羽村から四谷 約42km)が開削されました。その功績により幕府は信綱に対して領内の飲料水・農業用水に困っていた野火止(新座市)方面への玉川上水の分水を許可し、承応4年(1655)に開削されたのが野火止用水(小平から志木の新河岸川 約25km)です。

□松平伊豆守信綱 慶長元年(1596)~寛文2年(1662)

幕府老中として3代将軍家光・4代将軍家綱の幕政を支えました。寛永14年(1637)島原の乱を鎮圧、その功績により川越藩主となっています。また 参勤交代の制度化・鎖国の整備や明暦の大火後の江戸再開発の基盤づくりにも貢献しています。墓所は新座市の平林寺にあります。

■出発前の確認(玉川上水駅)



## ■コース概要

玉川上水駅 集合

- ⇒ 玉川上水小平監視所 ⇒ 「玉川上水 清流の復活」の碑・上水小橋
- ⇒ 赤レンガの道 ⇒ 東京都薬用植物園 ⇒ 林外の里・「野火止用水 清流復活の碑」
- ⇒ 野火止橋・用水工夫像 ⇒ 野火止緑地 ⇒ 明治学院ライオン記念館
- ⇒ 九道の辻 ⇒ 昼食（八坂 HACHI） ⇒ 久米川駅 解散

## ■散策記録

### □東京都水道局小平監視所

台風18号の影響で天候が心配されましたが、蒸し暑い薄曇りの中、玉川上水駅を10:15分に出発。玉川上水を右に見て5分程歩くとゴミ除去装置・沈殿池が見えてきます。そこが小平監視所です。ここで見える水は羽村で取水した多摩川の原水ですが、ここから先は地下の導水管で東村山浄水場に送られ都民の水道水として提供されています。

### □「玉川上水 清流の復活」の碑・上水小橋

小平監視所の先 50m程行ったところに玉川上水の「清流の復活」の碑があります。その先を下に降りると上水小橋があり、昭和61年に東京都の「清流復活事業」の一環として多摩川上流水再生センターでの下水を高度処理（オゾン）した再生水が岩から湧き出る放流口を見ることが出来ます。（「甦る水」100選）



小平監視所



玉川上水の放流口

### □赤レンガの道

上水小橋から戻ると左手に赤レンガの緑道が続いています。この辺りが野火止用水への分水点と言われています。現在の野火止用水は暗渠になってこの赤レンガの道の下を再生水が流れてこの先東大和駅を過ぎたところで川筋を現します。

ここからは西武拝島線を左手に見ながら赤松並木の緑道をのんびりと進み東京都薬用植物園を目指します。



## □東京都薬用植物園

東大和駅に隣接する薬用植物園に立ち寄ります。設立は戦後間もない昭和21年で歴史があります。職員の野上さんのガイドで植物園の歴史や薬草の効能・名前の由来・市販生薬への配合などについてわかりやすく、面白く教えて頂きました。

例えば牡丹と芍薬の違い、秋の七草の桔梗・柿のへたの効能は？ 黄金花・江戸紫の花の色は？などなどです。あっという間の45分でした。



## □ホテルの里・「野火止用水 清流の復活」の碑

植物園を出て左に行くと江戸時代初期に青梅街道と野火止用水（暗渠）が交わる地点に架けられた青梅橋跡があり、その跡が史跡指定されています。その交差点を渡り拝島線の高架下をくぐり抜けて先に進みます。しばらくすると住宅地の中の緑道に沿って野火止用水の一部が細いせせらぎの川筋となって現れます。この流れの中で東大和市と市民が協力してハイケホテルを育てています。さらに進むと「野火止用水 清流の復活」の碑が現れ、玉川上水と同様の再生水の放流口になっており、雑木林の中に自然の川筋とともに水の流れを見ることができます。



## □用水工夫像・野火止緑地

しばらく雑木林が続き、野火止橋横に立つ開削時姿の用水工夫像を見ながら進むと野火止用水の流れと雑木林に武蔵野の雰囲気を感じながらの散策を楽しむことが出来ました。ここが野火止緑地と呼ばれている所です。



#### □明治学院 ライシャワー記念館

雑木林が終わり、野火止用水は住宅の間をゆっくりと流れています。広い道路に出ると左手にある富士見橋の公園があり、水分補給の一休みです。そして 先を急ぐと左側に明治学院の校舎・赤い屋根の建物が見えてきました。ここで寄り道です。許可を得て正門より明治学院のキャンパスに入りライシャワー記念館の外観を見学と記念撮影。昭和36年(1961)から5年間アメリカの駐日大使として日米関係の強化に尽力されたライシャワー大使が明治43年(1910)にこの家で生まれ16歳まで過ごした建物なのです。昭和40年(1965)に港区白金台からこの地に移築復元され「東村山30景」に選定されている明治時代の洋風建築です。



#### □九道の辻

明治学院を出発するとまた野火止用水の川筋が現れ、遊歩道が続き雰囲気のある水と緑の住宅街の中をしばらく進みます。先には西武国分寺線の踏切が見えてきました。これを渡って「九道の辻」の交差点に着きます。「九道の辻」の地名の由来は鎌倉街道・江戸街道・大山街道・奥州街道・引股道・宮寺道・秩父道・清戸道・御窪道の九本の道が交差していたことによります。また 元弘3年(1333)に拳兵した新田義貞がこの辻で鎌倉への道に迷ったため迷うことがないように鎌倉街道沿いに桜を植えたと言い伝えがあり「迷いの桜」と呼ばれていましたが現在はありません。



□昼食（八坂のダイニング HACHI）⇒ 久米川駅

「九道の辻」の交差点を渡り八坂駅前を久米川方面に右折、13時近くになりましたが無事レストラン「HACHI」に到着です。パスタランチの昼食で会話の弾んだ昼の一時を過ごしました。昼食後は先程の「九道の辻」の交差点に戻り、本日最後の行程である久米川駅まで、再び野火止用水に沿って約1kmの散策を開始。しばらく行くと西武新宿線の踏切が見え、その下を野火止用水が流れています。ここが本日の野火止用水散策の終着地点であり、次回のスタート地点となることを確認して久米川駅に向かい駅前で解散となりました。お疲れ様でした。

■おわりに

天候にも恵まれた第一回の「野火止用水」の散策でしたが、「初めて知った野火止用水」だったのではないのでしょうか。「玉川上水」は知っていても「野火止用水」は知らなかったのでは。徳川家康は江戸の町作りにおいて川・水のインフラ整備に注力し、その後も家光・家綱にも引き継がれました。川と水は文明・文化の母と言われますが「野火止用水」を含め江戸時代には水路が整備され現在まで引き継がれて残っている歴史に思いを馳せることが出来ました。また 水の流れと雑木林の風景に武蔵野の雰囲気を感じた「野火止用水」散策の一日でした。ご協力有難うございました。

担当 Dグループ： 小林 典子・佐藤 一郎・福本 健一  
以 上